

令和8年度 上田市立 丸子北小学校 学校自己評価中間報告(職員)

学校教育目標		めざす子どもの姿(中期的目標)	
違いを認め、お互いを大切に する子 自分の考えを持ち、 進んで学ぶ子 最後までやり抜く子		おもいきり探究	
		今年度の重点目標	
		1	個性に満ちた学校の創造 well-Beingの実現 互いを認め合う
		2	子どもを主体者とした授業の創造 FSP・生活・総合での探究 学び合い
		3	「みつめよう」心みがき清掃の充実

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	主体的、対話的な学習	学び合いの学習について研修を深め、「主体的、対話的で深い学び」の学習を展開できた。
		基礎的な学力の定着	「書く力」「読む力」の向上をめざし、授業改善に取り組んできた。
			「つむぐ」を活用し、家庭と連携して家庭学習の充実を図った。
			朝読書を通して、落ち着いた生活をスタートさせ、基礎力及び活用力の向上をめざした。
	生徒指導	よりよい人間環境づくり	子どもたちが安心して生活できるように、子どもの心に寄り添った支援をした。
			Q-Uや相談の時間を利用して、学級の人間関係の把握につとめ、児童の困り感に寄り添った。
			特別に配慮を要する児童についての研修を深めた。
学校運営	地域連携と	学校からの情報発信	学年だより、学級だより、HP等で、学校の様子を伝えた。
		地域に開かれた学校づくり	地域の安全見守り隊や、給食・クラブ・読み聞かせボランティアなどと連携して、教育活動を活性化させた。
	研修	授業改善と児童理解	研修したことを日常の授業に活かした。
	支相談	子どもや保護者との教育相談	保護者や子どもからの相談に対して、関係職員や関係機関と連携しながら、適切な対応をした。
	為防違止行		非違行為防止に努めている。

総合評価						
探究活動やFSPでは、児童が主体的に学ぶ姿が見られる一方、活動時間の確保や、一人ひとりの興味・関心や学びの段階に応じた支援に課題が残った。今後は、児童に身に付けさせたい力を明確にし、子ども同士が学び合い、自ら問いを見いだす授業の実現に向けて、職員全体で研究と実践を深めていく。						
成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策
一人ひとりの個性や得意なことを生かす活動を通して、自分のよさを認める姿が見られるようになってきた。一方、言葉遣いや学校のルールを守ること、相手の気持ちを考えて行動することには、引き続き指導が必要である。			○			職員が丁寧に声をかけ、相手を大切にする言葉遣いについて、児童と一緒に考える機会を設ける。学校のルールを守ることが難しい児童には、一人ひとりの状況に応じた支援を行い、相手を思いやる心を育てていく。
FSPでは、自分の興味・関心に向き合い、友達と学び合う姿が見られる。一方、学びをさらに深めるための課題設定や教師の支援、振り返りの工夫が必要である。			○			発問や単元の導入の仕方を工夫していく。職員研修を通して目指す児童像を共有し、授業での関わり方や振り返りの仕方について研究をしていく。
清掃を通して、自分の心を見つめ、成長しようとする姿が見られる。一方、清掃の基本的な手順や、最後まで丁寧に取り組むこと、振り返りを生かすことには課題が残る。			○			清掃の基本手順を必要に応じて指導し、職員も共に取り組む。自己を客観的に見つめる力を育むため、振り返りの仕方についても支援する。

成果と課題		A	B	C	D	改善策・向上策
職員研修を通して、学び合いを生かした授業づくりへの理解が深まり、児童が問いを立てる授業に取り組んできた。一方、自分の考えをもち、主体的に学習に参加することには課題が残る。			○			自分の考えを表現する機会を増やし、安心して意見を伝え合える授業づくりを進める。課題設定や個に応じた学習への参加方法を工夫し、継続して授業改善に取り組む。
学習用端末の活用や日記、MIM等の取組を通して、読む力・書く力の向上が見られる。一方、一人ひとりの学習状況には差があり、文章を読み取る力を高めるための支援や、個に応じた指導が必要である。			○			自分で考えて書く活動を意識する。視覚支援ツールやDAISY教科書の導入、個の実態に応じた読解指導を工夫する。引き続き、朝読書の時間を大切にする。
毎日の「つむぐ」に取り組む習慣は定着しつつある。一方、家庭学習の充実や学力の向上につなげるためには、取組内容の工夫や、家庭との連携をさらに進める必要がある。			○			一人ひとりの状況に応じて、学習の記録や予定の確認を支援する。基礎学力の定着につなげる家庭学習を工夫し、その目的や取組方法を保護者に伝えて連携を深める。
朝読書の時間を設定することで、落ち着いた一日を始められるようになった。一方、登校後の準備や時間を意識した行動には課題が残る。			○			時間意識を大切にしたり取り組みを促す。本選びの支援や読み聞かせを行い、読書の幅を広げ、職員自身も共に読書することを心掛ける。
児童の思いや声に耳を傾け、安心して学校生活を送れる環境づくりに努めた。個別の相談や必要に応じた支援を通して、安心して登校し、授業に参加できる姿が見られるようになってきた。			○			個別相談の機会を日常的に確保し、児童の悩みや不安を早期に把握して、必要な支援につなげる。個々の児童への対応について、職員間で連携して取り組む。
「なかよし週間」の個別懇談等を通して、児童の悩みや不安を把握し、職員間で情報を共有した。また、Q-Uの結果を把握し、生活や児童への対応、クラスづくりに生かした。一方、相談の機会を十分に確保することには課題が残る。			○			児童が安心して相談できる時間を確保し、悩みや不安を早期に把握する。学級の状況を職員間で共有し、よりよい学級づくりに生かしていく。
専門研修を通して職員の理解が深まり、複数の視点から児童を支援する体制が整ってきた。今後は、一人ひとりの特性やよさを生かしながら、互いに学び合える集団づくりを進めていく。			○			学んだ専門知識やアセスメントを生かして、児童支援していく。職員間の情報共有、絵カード等の視覚支援を推進する。
レクリエーションを通して、友達との関わりを楽しみながら、主体的に活動する姿が見られた。自分たちで考え、行動する力をさらに育てていく必要がある。			○			自主・自律や関係づくりといった活動目的を児童と共有し、活動内容を考える時間も大切にしていける。参加しづらい児童の気持ちにも配慮し、伴走を行う。
学年だよりや学級だより、ホームページを通して、学校の様子を発信することができた。今後も継続して情報を発信できるよう、更新の分担など、職員の負担に配慮した体制づくりを進める。		○				更新担当を分担するなど、持続可能な体制を整備していく。
登下校の見守りや読み聞かせ、給食、クラブ活動など、地域の皆様の協力を得ながら、教育活動を充実させることができた。日頃の温かいご支援に感謝している。		○				4月当初からボランティアの協力を得られるよう、年度末から調整を進める。ボランティアの方と休み時間等にも日常の関われるよう、交流の機会を広げていく。
特別支援や学び合いに関する研修で得た知識や学びを、日々の授業に生かすことができた。また、研修内容を職員間で共有し、授業改善や児童理解につなげている。			○			引き続き研修内容を日々の授業に活かしていく。公務用アプリに、研修メモや気付き等を保存・共有する仕組みを作り、効果的に学び合うようにする。
子どもや保護者からの相談には、関係職員が連携し、家庭と協力して対応する体制が整っている。一方、今後の支援方針について十分に話し合う時間を確保することが課題である。			○			細かな事象についても直ちに職員間で共有できる現在の体制を維持していく。職員同士が対話する時間を確保していく。
毎月の非運行為防止研修を通じ、職員一人ひとりが高い倫理観をもち、非運行為の防止に努めている。また、児童が安全に登下校できるよう、交通ルールの指導や安全確認を継続していく。		○				教職員としての意識を高められるよう、研修を継続する。児童が守るべき歩行ルールを再確認し、事故の防止に努める。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった